

【 復活讃詞 第1調 】

きゆ せ いしゆよ、イウデヤのひとはかをふ うじて、へいそつ
 救 世 主 人 墓 封 兵 卒
 なんちの いさぎよきみ をまもると き、なんちは みつかめにふくか つ
 爾 潔 軀 守 時 爾 は 三日目 復 活
 して、せ かいに いのちを たま えり。ゆえ にてんぐんは なんち
 世 界 生 命 賜 故 天 軍 爾
 いのちを ほどこすのしゆによんでい う、ハリスト スや、こう えいは
 生 命 施 主 呼 曰 う、ハリスト スや、こう えいは
 なんちの ふくか つにき し、こう えいは なんちのくににき す、
 爾 復 活 歸 し、こう えいは なんちのくににき す、
 ひとりひとを いくしむのしゆ や、こう えいは なんちのおもんばかり
 獨 人 慈 主 や、こう えいは なんちのおもんばかり
 にき す。
 こう えいは ちとこ せいしんにきす、いまも いつもよよ に、アミン。
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今 何 時 世 世

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】

しととひとしく どうざな るもの ちゅうじつにしてしんちなる
 使 徒 等 同 座 者 の 忠 實 神 智
 ハリスト スの えきしゃ、せいなるしんにえらばれたるふえ、ハリストスの
 役 者 聖 神 撰 筆 笛
 あいにみちた るうつわ、わがくにのこうしょ うしゃ、
 愛 満 器 我 國 光 照 者

あしとしゆきょうせいニコライよ、なんぢのぼくぐんのため、
 亜使徒主教聖 爾 羊 群 爲
 およびぜんせかいのために、いのちをたもうせいさんやにいのり
 及 全 世 界 爲 命 賜 聖 三 者 祈
 たまえ。

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、

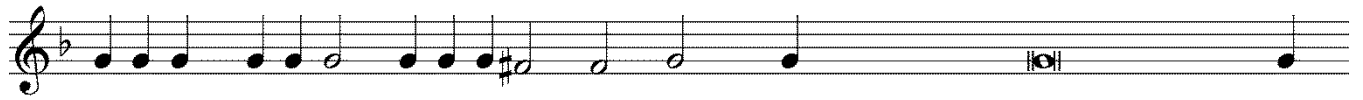
アミ ン。

【 聖三祝文 】

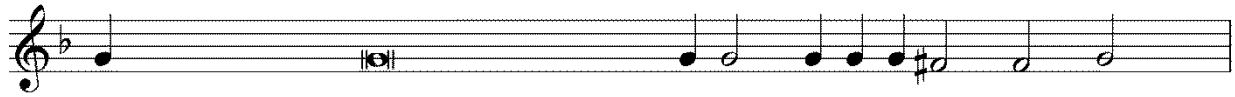
せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらを
 聖 神 聖 勇 毅 聖 常 生 者 我 等



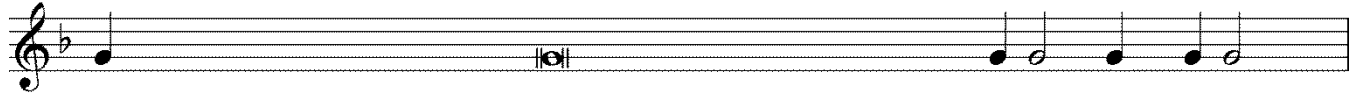
あわれめよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいの
憐 聖 神 聖 勇 毅 聖 常 生 の



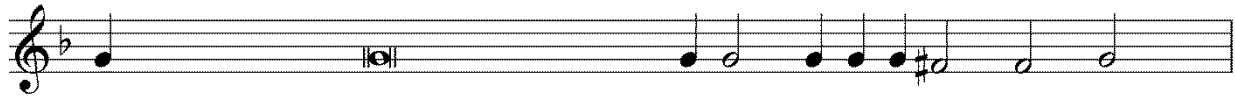
ものよ、われらをあわれめよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
者 我 等 憐 聖 神 聖 勇 毅



せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。
聖 常 生 の 者 我 等 憐



こうえいはちことせいしんにきす いまもいつもよよにアミン。
光 榮 父 子 聖 神 歸 今 何 時 世 世 に ア ミ ン。



せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。
聖 常 生 の 者 我 等 憐



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、
聖 神 聖 勇 毅 聖 常 生 の 者



われらをあわれめよ。
我 等 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 提綱 (プロキメン) 主日第1調 】

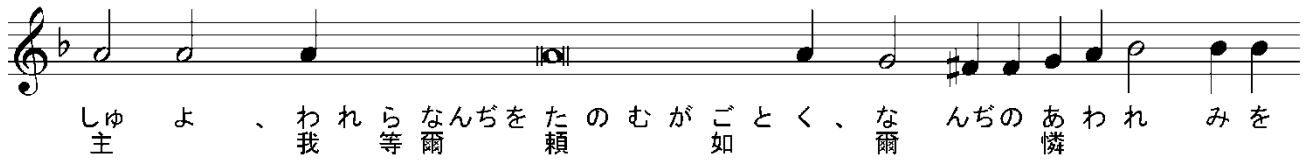
司祭) 慎みて聴くべし、衆人に平安、



なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

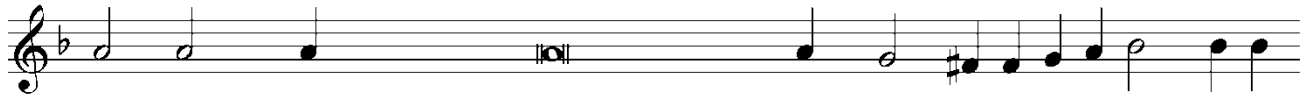


しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、なんぢのあわれみを
主我等爾頼如爾憐



われらにたれたまえ。
我等垂給

誦經) 義人よ、主の爲に喜び、讚榮するは義者に適う、



しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、なんぢのあわれみを
主我等爾頼如爾憐



われらにたれたまえ。
我等垂給

誦經) 主よ、我等爾を頼むが如く、



なんぢのあわれみをわれらにたれたまえ。
爾憐我等垂給

【 使徒經 (アポストロス) 131 端 コリント前書 4 章 9 節~16 節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パウエルがコリント人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、我意うに、神は我等使徒を末なる者と爲して、死に定められたる者の如く顯

せり、我等は世界の爲、天使等及び人人の爲に、觀玩と爲りたればなり。我等はハリス

トスに因りて愚なり、爾等はハリストスに於て智なり、我等は弱く、爾等は強し、爾等

は榮を享け、我等は辱に處るなり。今に迄るまで我等は飢え、渴き、裸裎になり、撻

たれ、定り居る處なく、勞して手づから工を作す。我等詈られては祝福し、窘逐

せられては忍び、謗られては禱る、我等は世の汚穢の如く、衆の踐む所の塵垢の如く

せられて今に至れり。我は爾等を愧しめんと欲して此を書するに非ず、乃我が愛

^{ところ} ^こ ^{ごと} ^{なんぢら} ^{おし} ^{けだし} ^{なんぢら} ^{おい} ^{ばんにん} ^{しふ}
 する 所 の子の如く 爾 等を訓うるなり。 蓋 爾 等には、ハリストスに於て 萬人の師傅あ
^{いえども} ^{おお} ^{ちち} ^{われ} ^{おい} ^{ふくいん} ^{もつ} ^{なんぢら} ^う
 りと 雖、多くの父あるなし、我ハリストス イイスに於て 福音を以て 爾 等を生みた
^{ゆえ} ^{われ} ^{なんぢら} ^{もと} ^{われ} ^{なら} ^{われ} ^お ^{ごと}
 ればなり。 故に我 爾 等に求む、我に效いて、我のハリストスに於けるが如くせよ。

(比較用 口語訳)

神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。今の今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている。

わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさとすためである。たとえあなたがたに、キリストにある養育掛が一人あつたとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。そこで、あなたがたに勧める。わたしにならう者となりなさい。

司祭) ^{なんぢ} ^{へいあん} 爾 に平安、

誦經) ^{なんぢ} ^{しん} 爾 の神にも、ア ril l i ya、

【 ア ril l i ya 主日第1調 】

司祭) ^{えいち} 睿智、



ア ril l i ya、ア ril l i ya、ア ril l i ya。

誦經) ^{ねが} ^わ ^{ため} ^{あだ} ^{かえ} ^{われ} ^{しょみん} ^{したが} ^{かみ} ^{さんしょう} 願わくは我が爲に 仇を復し、我に諸民を 従わしむる神は 讚 頌 せられん、



ア ril l i ya、ア ril l i ya、ア ril l i ya。

誦經) ^{おおい} ^{すくい} ^{おう} ^{ほどこ} ^{あわれみ} ^{なんぢ} ^{あぶら} ^{もの} ^{およ} ^{そのすえ} ^{よよ} 大なる 救を王に 施し、 憐を爾の膏 つけられし者ダヴィド及び其裔に 世に

^た ^{もの} ^{われ} ^{なんぢ} ^な ^{うた} 垂るる者よ、我 爾 の名に歌わん、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 。

司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いきぎよ ひかり かがや わ しねん}人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の 浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ}の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ}畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ}を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん}爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ}て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世々に、アミン。)

【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 72 端 17 章 14~23 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん}睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ}マトフェイ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいはなんぢにきす。
主 光 榮 爾 に き し、 光 榮 爾 に き す。

司祭) ^{つつし き}謹みて聴くべし、

司祭) ^{か とときあるひと つ ひざまづ い しゅ わ こ あわれ かれてんかん わづら}彼の時或人イイススに就きて、跪きて曰えり、主よ、我が子を憐め、彼癩癩を患

^{くるし はなはだ けだししばしばひ たお またしばしばみづ たお われこれ たづさ なんぢ}いて、苦むこと甚し、蓋屢火に倒れ、亦屢水に倒る、我之を攜えて、爾

^{もんと つ かれらいや あた こた い ああしん もと}の門徒に就きたれども、彼等醫すこと能わざりき。イイスス答えて曰えり、噫信なき悖れ

^{よ われいつ なんぢら とも あ いつ なんぢら しの かれ ここ われ たづさ}る世や、我何時までか爾等と偕に在らん、何時までか爾等を忍ばん、彼を此に我に攜

^{きた まき いまし まきい そのこ とき い そのときもんとひそか}え來れ。イイスス魔鬼を禁めれば、魔鬼出でて、其子斯の時より愈えたり。其時門徒私

^{つ い われら これ お いた あた なに ゆえ かれてら い}にイイススに就きて曰えり、我等が之を逐い出す能わざりしは何の故ぞ。イイスス彼等に謂

^{なんぢらしん ゆゑ けだしわれまこと なんぢら つ なんぢらも からしだね ごと しん}えり、爾等信なき故なり、蓋我誠に爾等に語ぐ、爾等若し芥種の如き信あら

ば、此の山に、此より彼に移れと言うとも、移らん、又爾等に一も能わざること勿らん。此の類に至りては、祈禱と齋とに由らざれば出でざるなり。ガリラヤに在る時、イエス彼等に謂えり、人の子は人人の手に付されん。且彼を殺さん、而して第三日に彼復活せん、

(比較用 口語訳)

ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。〔しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない〕」。

彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいはなんぢにきす。

主 光 榮 い は なんぢに き し、 光 榮 い は なんぢに き す。